

第12回全国空手道指導者研修会



岩城講師による講義（自宅から配信）

小山講師による基本技術指導（会場から配信）

第12回全国空手道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本空手道連盟、全国高等学校体育連盟空手道専門部、全国中学校空手道連盟、後援＝スポーツ庁）は、8月16日・17日の2日間、中学校保健体育科教員を中心に33名の参加者を得て、オンライン会議システムによる方法で実施された。当初は、参加者も会場に集まり、2泊3日の日程で実施予定であったが、コロナ禍による緊急事態宣言を受け、講師のみ東京・辰巳の日本空手道会館に集まり（一部、遠隔出席）、国際航空写真（株）による撮影・配信協力のもと、中学校新学習指導要領を踏まえた内容により、1泊2日で講義や実技指導が行われた。

■1日目（8月16日）

開講式では、はじめに栗原茂夫全日本空手道連盟副会長、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が、それぞれ主催者挨拶を述べ、次いで小山正辰講師が講師代表挨拶を述べた。

開講式後、栗原講師より『2020年東京五輪の成果と課題・中学校武道必修化について』の講義があり、オリンピックの総括を行うと共に、「武道の持つ美徳やオリンピックの良い部分をレガシーとして、学校教育の充実、空手界の充実につなげていきたい」と述べた。



栗原 茂夫 副会長

次に、岩城公二講師による『空手道授業の現状』の講義では、新学習指導要領の変更箇所を中心に説明があり、中でも主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善として、自分の思考や行動を客観的に把握し、認識する「メタ認知」を授業の中で取り入れる必要性を説き、そのための「み方」を示した。

続いて、日野一男講師による講義『空手道における安全配慮と憲章の求める指導者像』が行われ、空手道の安全性を説明すると共に、やるべき義務を果たさない結果の事故は「法の上に寝ていた結果と同じ」であるとした法の基本理念について判例を取り上げながら説明した。

■2日目（8月17日）

午前は、全日本空手道連盟と日本教育新聞社が、中学校保健体育科の武道授業で「空手道」が扱えるよう

に共同作成した『授業支援パッケージ』について、日下修次全日本空手道連盟理事・事務局長から概要説明があった後、岡崎紀創同連盟職員から単元計画を中心にポイントの説明や今後作成を予定している教材などについて紹介があった。

次に『基本技術』について、参加者を3班に分け、上級者を小山講師、中級者を井下佳織講師、初級者を竹見国雄講師により、受けや突き、移動の仕方について画面越しに指導が行われた。

続いて、佐藤賢一講師による『特別支援学校における空手道授業』が行われ、空手道の形や礼法に着目した指導は、社会性の高まりが期待できるとした調査研究の説明があった後、基本形1に必要な動作を「パプリカラテ」の音楽に合わせて練習する授業風景などの紹介があった。

午後は、野中史子講師による「団体形演武」が行われ、前半では演武ポイントや試合の進め方について資料や動画をもとに説明があった。後半は、Zoomミーティングのブレイクアウトルーム機能により、参加者を10グループに分け、指導上の課題や共通の課題を各グループで話し合った後、参加者による演武披露が行われた。



最後に小山講師による『創作組手』が行われた。攻防の中に自己課題を発見し、課題解決のための取組を工夫し、自己の考えを他者に伝えるとした新学習指導要領の思考力、判断力、表現力の育成に創作組手は効果がある旨の説明があり、段階的な指導方法や指導上の留意点、評価について資料や実技を交えて指導が行われた。

閉講式では、小山講師による講師講評、有竹隆佐全日本空手道連盟専務理事による主催者挨拶が行われ、研修会の全日程を終了した。